

モスクワに告ぐ

おれは寝袋いがいに

何も要らぬコマンド

ベッド・ルームの赤ランプよりも

川つぷちの土手の夜露に濡れていた

羽根布団にふかく抱かれるよりも

山の岩磐に寝て星と語りたい

おれは敬礼する

モスクワの赤い星よ

拒否してきた

数々の慰めの季節の彼方に

お前はいつも傲然と輝いていた

おれが徹夜でつくる

精度まちまちの作戦地図には

赤の広場からコンパスした線が

いつも一本入った

だがモスクワよ

お前は知っているか

お前のひと呼吸のタイミングが

少しずれただけでも

お前の一挙手の方角が

少しゆがんだだけでも

全世界の左翼が大量に生き

そして 大量に傷つき死ぬことを

モスクワの赤い星よ

お前の赤は

人の心を凍らせる赤であってはならぬ

お前の赤は

見る人の心を温め励ます

太陽の赤でなければならぬ

(一九五七・一一)